



センター試験受験票・「受験上の注意」の確認を

全員でうれし涙を流すために②



一昨日、センター試験の受験票、写真票、成績請求票、「受験上の注意」を配付しました。

まず、受験票、写真票の取り扱いと「受験上の注意」をよく確認しておきましょう。

授業でのセンター対策は勿論大切ですが、受験票・写真票・「受験上の注意」をよく確認しておかないとあとで知らなかったでは済まないことも出てきます。

ここは、まず慎重に自分でしっかり「受験上の注意」を熟読しておくことが必要です。自分自身のためのセンター試験受験です。人任せでなく、自分でしっかり受験上の注意を理解しておきましょう。

そして、疑問点はそのままにせず、必ず先生に質問して、解決しておくようにしましょう。なお、「受験上の注意」は当日も必ず持参することをおすすめします。

それでは、ここで受験票と写真票、受験場について確認しておきます。

○ 受験票・写真票の取り扱い

受験票・写真票等は各自、次の準備が終了したら、クリアファイル等に入れて、「絶対に紛失しない、汚さない」ように保管場所を決めて、しっかり保管しておきましょう。

写真票はセンター試験当日、最初に受験する試験中に回収されます。また受験票は、大学の入学手続き等まで必要なのでセンター試験が終わってからも各自責任を持って、しっかり保管しておいてください。

①受験票・写真票の写真欄に必ず同一の写真(縦4cm・横3cm)を貼る。試験時間中に眼鏡をかけるものは、必ず眼鏡をかけて写真を撮影すること。写真は3ヶ月以内に撮影したもので上半身無帽のもの、白黒・カラーは問わない。画像が鮮明なら、スピード写真デジタルカメラ写真も可。受験票・写真票に貼る前に裏面に氏名を必ず記入しておくこと。

②受験票・写真票の自署欄に忘れずに本人が必ず黒のボールペンで氏名を自署しておくこと。

③下半分の成績請求票はあらかじめ切り離して大切に保管しておく。国公立大・センター利用私立大の願書提出に必要。

④受験票と写真票は当日に必ず持参すること。試験当日は常に受験票を携帯する必要がある。



○ 試験場について・・・試験場は茨城大学本部と常磐大学

センター試験の緑高生の試験場は、茨城大学本部と常磐大学に分かれています。自分の受験票で試験会場名を必ず確認して下さい。

会場となる茨城大学・常磐大学に行ったことがない人は、土・日や冬休みを使って、事前に下見をしておくといでしょう。当日初めて受験会場に向かうのでは、予想以上に時間がかかったりする場合があります。

下見に行けない場合は、必ず電車・バスの時刻所要時間・会場までの道のり等を十分に調べておくこと。また、センター試験の行われる1月14日・15日頃は降雪が多い時期です。当日に雪が降るなど気象による交通機関への影響も考慮して、リスクの少ない経路を事前に考えておき、前日から気象・交通情報は必ずチェックしておくことも大切です。

○センター試験の所持品の準備をしよう。

センター試験へ向けての勉強は勿論ですが、センター試験へ持って行くものを各自早めに確認しておきましょう。

最低限①受験票・写真票②黒鉛筆③消しゴム④時計の4つは忘れてはいけない所持品です。直前に慌てないようにこれから冬休みにかけて早めに準備をしておくことが必要です。昨日配付した「受験上の注意」p20に試験当日所持品チェックリストがあります。

所持品については「センター試験受験案内」p46～47の注意事項を各自読んでおくことが必要です。そこには当日机上におけるものなどが詳しく書かれています。

ちなみに定規・コンパス・携帯電話・スマートフォン等の電子機器類は使用不可ですから机上に置くことはできません。早めによく確認しておきましょう。

また、鉛筆・消しゴムなどは当日に新品のものを使うのではなく、これからの授業のセンター試験演習などで使った使い慣れたものを使うことが大切です。「先んずれば人を制す」です。直前になって慌てないように今から準備を始めましょう。

保護者の皆様へ 三者面談について(お礼と確認事項)

先日は三者面談にご協力ありがとうございました。10月11月のベネッセ・駿台模試の結果を中心に国公立大学の受験可能性ある学校、私立大学の受験校について話し合いをしましたが、今後ご相談があればいつでも担任にお声をおかけください。

なお、国公立大学出願校は最終的にはセンター試験自己採点のリサーチ結果資料を使って1月21日(土)・22日(日)の面談で決定します。希望者は三者面談を行います。

センター試験の出来を考慮して、もう一度出願可能性のある国公立大学(地域も含めて)を絞り込んでおいてください。受験可能性のある大学は年内に願書を取り寄せておいてください。

また、この時期のお子様へのサポートですが、私もかつて受験生の親だった経験があり、受験生の親の気持ちはわかります。親は子供のことが心配でつい、「勉強しているの」「大丈夫なの」「絶対現役で受かってよ」などと、ペリペリしている受験生の気に障るような言葉をかけがちです。

ここまで来たらこの時期、お子様たちは自分のやるべきことは何か十分わかっているはずですが。あまりガミガミ言うとは逆効果です。かといって受験生の親だからといってあまり特別なことをする必要はないと思います。

親のできることは限られています。消化のよい食事を作り、規則正しい生活をさせてあげること。健康管理に気配りして、いつも通りにお子様に接すること。ある程度お子様を信頼して、見守り、気持ちよく受験に臨めるような態勢を作ってあげられるとよいと思います。

